

熊本県言語聴覚士会

Speech Language Hearing Therapist

会報 *KSTNET*



第27号 2006年10月30日発行

発行：熊本県言語聴覚士会

直通ダイヤル 070-5961-4461(受話専用)
〒862-0913 熊本市尾ノ上1丁目14-27
熊本託麻台病院(事務局)
TEL 096-381-5111(内線228)
FAX 096-381-5115
E-mail:takumadai-st@horio-kai.or.jp

編集：広報部

〒869-3205 宇城市三角町波多2864-111
メディカル・カレッジ香照館
TEL 0964-54-2211
FAX 0964-54-2213
E-mail:yamaguchi@seishoukan.ac.jp

責任者：山口 信

会長からのメッセージ



熊本県言語聴覚士会 会長 小園真知子

「言語聴覚士を知ってもらう努力を」

平成10年9月1日は、言語聴覚士法が施行された日です。医療・保険・介護関係者ばかりでなく、一般の人々にも、STの仕事が本当の意味で理解されているでしょうか？

言語聴覚障害を持つ方々が、必要な時に望む場所で、十分な質と量の言語聴覚療法を受けられているでしょうか？

リハビリ界の流れとして、機能訓練とともにADL訓練の必要性が叫ばれるようになりましたが、もうひとつ忘れてならないのが環境因子としての聞き手の理解です。

私たち一人一人が出会った家族、患者に関わるスタッフ、そのほか一般の人などに、言語聴覚士のこと、言語障害について積極的に伝えていきましょう。

言語聴覚士法が施行された9月1日を言語聴覚の記念日とし広報活動をする計画も準備されています。以下の文は、一足早く県内への啓発を目的に投稿したものです。

【平成18年9月1日 熊本日日新聞朝刊掲載】

言語聴覚士に理解を

9月1日は言語聴覚士法が施行された日です。平成11年、第1回国家試験で誕生した約40名で始まった熊本県言語聴覚士会は、満7年を迎えます。

言語聴覚士(ST)は、言葉や聴力、食事の飲み込みに問題をもつ方々やご家族の相談や指導にあたり、生活を支援していく職種です。当県では約200名の

言語聴覚士が、医療、保健、福祉、教育の幅広い領域で活動していますが、言語療法が必要な方々すべてにリハビリを提供するには人数が不足しています。このような状況の中、先日の本誌の若者コーナーで、「言語聴覚士になりたい」との高校生の投稿を読み、心強く思いました。ぜひ、心ある若者たちに言語聴覚士を目指してほしいと願っています。熊本県言語聴覚士会のホームページでは、言語聴覚士のいる機関や仕事について詳しくお伝えしています。

人にとって「話すこと」「食べること」は、1日も欠かせない命の基本です。普段、意識しないこれらの働きが、小児から高齢者まで様々な原因で支障をきたします。先天的な言葉の遅れには、乳児期からの長期的な発達支援や言語指導が必要です。後天的な言語障害は、私たち誰にでも起こりうるものです。とくに「失語症」はある日突然、脳卒中や交通事故で脳の言語中枢が傷ついて起こります。「聴く」「話す」「読む」「書く」すべての働きが低下するため、できるだけ早期から気長なりハビリが必要です。また、思春期、青年期の言葉の悩みは表面に出にくいだけに深刻で、言語聴覚士と出会って生きていく自信を得たという若者もいます。

県内のどこに住んでいても、『必要なときに、近くで言語療法が受けられる』を目標に、われわれ言語聴覚士はこれからも努力を続けていく所存です。



熊本市健康 フェスタ報告



9月23日(土)、9月24日(日)の両日、毎年恒例の熊本市健康フェスティバルが開催されました。県士会は言葉と聞こえの相談、脳力ゲーム、聴力検査、在宅コーナーでは嚥下障害の相談の内容で参加しました。当会のブースには、初日は約200名、2日目は約130名の方が来場されましたが、昨年よりは来場者が少ない結果となりました。全体的に見ても参加者は例年と比較すると少なかったとのことです。

県士会の実施内容ですが、まず、脳力ゲームではまちがえ探しと20ピースのパズル作成を実施してもらい、その完成までにかかった時間を計測し、その結果によって、序の口から横綱までランクわけをするというものでした。優秀な結果の方は名前を張り出す事にしましたが、さすがに名前を張り出すと聞いた瞬間、途端に表情が頑張りモードに変わられた方もおられました。聴力検査では、まず質問紙によるスクリーニングを行い、その結果、聴力障害の疑いのある方に対して簡単な聴力検査&説明を行いました。ただ、スクリーニング結果特に聴力に問題のない方の中にもどうしても「聴力検査がしたい」と希望をされる方もおられたようです。また、相談では、言語聴覚士になるためには、どうしたらよいのかといった質問から、失語症患者様のご家族からコミュニケーションの方法についての質問などがありました。また在宅コーナーの嚥下障害ブースでは嚥下障害者の食事に関する悩みなど両日で11個の質問があり、嚥下障害で悩まれている介護者の方の多さを実感いたしました。

以上、熊本市健康フェスティバルの報告でした。なお、県士会東部ブロックの会員さんが両日で延べ23名参加していただきました。また、会当日まで県士会のジャンバーをお借りするのをすっかり忘れていたのですが、託麻台病院の田崎先生が会場までわざわざ届けてくださいました。みなさん御協力本当にありがとうございました。

事業部 宮本恵美

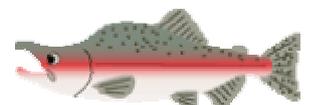
ブロックだより



【北部ブロック報告】

北部ブロックでは10月7日(土)に菊南病院にて、(元)江戸川病院リハビリテーション科科長の小島知幸先生をお招きして特別講演会を開催いたしました。講演内容は失語症の症状分析に関することや、訓練の立案方法等で非常に臨床で役立つ実践的な内容でした。参加者は76名でした。講演後の懇親会でも、失語症に関する現在のトピックスや症状の分析方法など、時間がたつのも忘れて、あつい談義が繰り広げられていました。

連絡先 熊本言語聴覚士会 北部地区 大塚裕一 (菊南病院 096-344-1711)



[東部ブロック報告]

東部ブロックは9月29日(金)にくまもと成仁病院にて勉強会を行いました。今回は西合志病院の村上先生とくまもと成仁病院の花生が担当し、村上先生には失語症患者に対しての書字訓練について発表して頂き、私も訪問リハにおける ST の役割についてお話させて頂きました。参加された ST から活発な意見や質問、アドバイスが飛び交い非常に実りの多い勉強会となりました。

次回も様々な方面での活発な勉強会になると思いますので、皆様奮ってご参加下さい。

くまもと成仁病院 花生健志

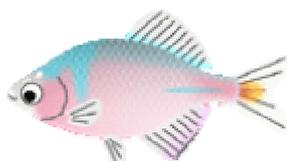


[中部ブロック報告]

中部ブロックでは10月4日(水)に熊本託麻台病院にて勉強会を開催しました。熊本託麻台病院の中村雅己先生に『研究発表の仕方』について講義をしていただきました。参加者は学生も含め20名程度でした。研究発表をした経験がある人でも、改めて学ぶ事が多くあり、大変参考になりました。また、新しい患者様を診る際に、はじめから仮説として結果・考察を立てて訓練を行っていくことでより良い結果を出すことができ、またより良い研究発表ができるということでした。

今回は11月に熊本第一病院でのブロック会開催を予定しております。皆様奮ってご参加ください。

熊本第一病院 前田紗知



[南部ブロック報告]

<南部ブロックの勉強会の案内>

秋らしい季節となりましたが皆さんお元気ですか。

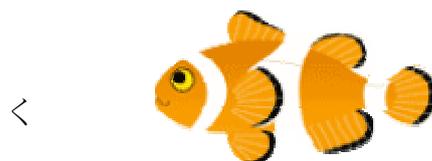
さて、南部ブロックでは12月2日土曜日(15時から17時)に八代市医師会病院の徳永先生により勉強会

を開催することとなりました。

内容は①当院での栄養管理に対する取り組み②転院後も訓練を継続し、訓練効果が得られた一症例③施設見学です。

特に②におきましては熊本労災病院より転院された患者様であり、私の方が急性期の状態を説明した後に転院後の話を徳永先生にさせていただく予定です。どうぞ皆さんふるってご参加くださいませ。

南部ブロック長 折口 直美



[西部ブロック報告]

西部ブロックでは9月29日(金)、ニュー天草病院において第3回研究会を行いました。演題は「若年者のコミュニケーション・社会性の問題」、発表者は青照館の山口でした。

現在の若年の抱えるさまざまなコミュニケーション・社会性の問題は人間関係が一時的に密になると顕在化します。特にセラピストの養成校では少人数が3年または4年間同じ顔ぶれで学び、また、臨床実習の指導者とも密な人間関係を築かなければなりません。そのため、こうした能力に問題のある学生は特に目立ちやすい世界です。

発表の中で、登場した事例に、出席者から「自分もこういう経験がある」といった発言も飛び出し、決して人事としては考えられない問題だと感じました。

次回の研究会は11月17日(金)に天草厚生病院で行われる予定です。発表は同病院の山内紗里先生です。奮ってご参加下さい。

メディカルカレッジ青照館 山口 信

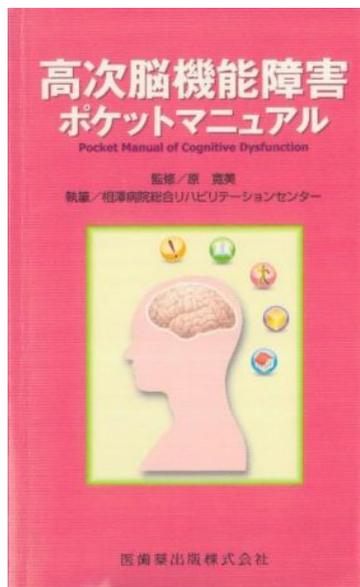




監修/原 寛美

執筆/相澤病院総合リハビリテーションセンター

『高次脳機能障害ポケットマニュアル』
医歯薬出版株式会社



高次脳機能障害の機序について詳しく解説した文献は多いですが、訓練について具体的に記述したものは意外に少ないのが現状です。

このポケットマニュアルはその意味で臨床のSTにとって貴重な本かもしれません。

もちろんマニュアルなので深く突っ込んだものではありませんが、「こういうときはどんな訓練があるのだろうか?」と思ったときにヒントにはなってくれるのではないのでしょうか。

ポケットマニュアルシリーズはほかに嚥下障害などもあります。

ST室に1冊ずつあっても決して損はしないシリーズだと思います。



平成18年度 第3回 理事会議事録

開催日:平成18年10月6日 19:00~

場 所:熊本託麻台病院

参加者:小菌、三浦、中村、黒川、山口、城野、折口、山本、下田、兼田、前田

【報告事項】

※ 議案参照

ブロック報告

東部:9/21 勉強会開催。くまもと成仁病院と西合志病院より症例を出してもらい、症例検討を行った。参加者は27名。

西部:9/28 青照館の山口先生による勉強会を開催。参加者は6名。

南部:8/19 公立多良木病院にてNST関連の勉強会を開催。次回は八代市医師会病院にて開催予定。

北部:10/7 小嶋知幸先生講演会開催 菊南病院 14時~

中部:10/4 熊本託麻台病院にて中村先生による勉強会を開催。参加者は20名程度。次回は11月に熊本第一病院にて開催予定。

【検討事項】

・ 学術研修部より

第2回学術研究会開催予定

平成19年2月18日 産業文化会館

12:30~受付開始

13:00~開演

生涯学習ポイント取得、および補助金申請予定

演題締め切り:12月29日 青照館宛に(2/17

国試のため考慮必要)

・ 第7回熊本失語症のつどい

お手伝いのボランティアの人数確保できている。

平成19年度の開催について

順番は熊本託麻台病院であるが、来年10月にたくま会20周年式典開催予定。

時期をずらして行うか？ 今後会員と検討する。

【事務局報告】

- ・ 選挙の年であるため、12月ごろより選挙に向けて準備を始める。
- ・ 医師や保健師などから外来でVFができる場所は？訪問を行っているところは？等の問い合わせ多い。ホームページ上でどの施設に何があるかを公開しては？

【その他】

- ・ 平成19年1/7~8 日本言語聴覚士協会 基礎講座講師の研修会
各県より会長ともう一人参加が必要。希望者は小菌先生まで連絡を。
- ・ 熊本県プライマリ・ケア研究会 世話人⇒熊本リハビリテーション病院 山本先生
- ・ 熊本脊髄小脳変性症友の会 活動報告 STの参加を呼びかける
- ・ 事務局 FAXが届いていないところがある（特に人吉地域） 各施設で履歴の確認を。
- ・ 理事会メールにて迷惑メール増えたという報告 ⇒（事務局）対策行った。

【次回開催日】平成19年1月5日 19:00~ 熊本託麻台病院 文責：熊本第一病院 前田紗知

会計より

年会費未納の方は、下記の口座に納入お願いします。年会費は4000円です。
肥後銀号 清水支店 普通預金
口座番号 1483841
名義 三浦真弓（ミウラマユミ）
県士会の活動は全て皆様の会費により行われています。なにとぞよろしくお願い致します。



【失語症者のつどいイン首都圏】

[開催日]平成18年11月3日(金)9:45-15:00

[会場]杉並区公会堂大ホール

[プログラム]

9:30-開場・受付開始

9:45-プロムナードコンサート:高浜博之さん・新澤隆志さん・細川昌子さん

10:20-開会のことば

10:30-体験発表

1)言語聴覚士、デイサービスの社長になる:ST 遠藤尚志先生 埼玉県坂戸市

2)ついに就職できました:細川晃史さん 26歳 茨城県

3)夫の失語症と作業所の生活:園田尚美さん 東京都杉並区

10:55-パネルシアター「お話 桃太郎」:あじさいの会(練馬区)&お茶の会(荒川区)

11:15-講演:大田仁史先生(茨城県立健康プラザ管理者)

12:00-昼食&休憩

13:00-各地の「失語症者友の会」やデイによるエールの交換

14:00-実践報告「車イス阿波踊り『ねたきりになら連』と私自身の失語症体験」:石川富士郎先生(徳島県阿南市富士医院院長)

14:30-参加者全員による阿波踊り

15:00-閉会のことば

[主催]パソコン工房ゆずりは

[後援]全国失語症者友の会連合会・杉並区社会福祉協議会・武蔵野市民社会福祉協議会

[申込先]〒168-0082 東京都杉並区久我山4-38-10

「パソコン工房ゆずりは」

電話・FAX 03-3247-6381

【国際医療福祉大学特別講演会】

[日時]平成18年11月5日(日)14:00-16:20

[場所]福岡国際医療福祉学院天神キャンパス(〒810-007 福岡市中央区長浜 1-3-1)

[内容]

「ジャーナリズムは日本の医療福祉をどう変えたか？」

国際医療福祉大学大学院 大熊由紀子教授

「医療の仕組みと看護管理」

国際医療福祉大学大学院 中西睦子教授

[同時開催]国際医療福祉大学大学院個別相談会

16:30-17:30

[問合せ先]国際医療福祉大学大学院福岡サテライトキャンパス(〒810-0072 福岡市中央区長浜 1-3-1)

TEL092-711-1126 Fax092-739-1609

E-mail:fukucamp@iuhw.ac.jp

【第7回日本クリニカルパス学会学術集会】

[日時]平成18年11月17日(金) 18日(土)

[会場]熊本県立劇場及び熊本学園大学

～クリニカルパスのさらなる進化を目指して～

[事前登録費] 8,000 円

[後援]熊本県言語聴覚士会

[学会ホームページ]

<http://www.jscp.gr.jp/meeting/index.html>

【聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科開設記念講演会】

[日時]2006年11月18日(土)13:00-

[会場]聖隷クリストファー大学 3602 大教室

[参加費]無料

[プログラム]

記念講演 13:15-14:15

「記憶と運動学習」講師:藤島一郎氏(聖隷三方原病院リハビリテーションセンター長)

教育講演 14:30-15:30

「Evidence-Based Rehabilitation におけるエビデンスの科学論」京極 真氏(江戸川医療専門学校 専任教員)

[問合せ]聖隷クリストファー大学総務部

TEL 053-439-1400

Fax053-439-1406

E-mail:somu-office@admin.seirei.ac.jp

【日本 ALS 協会コミュニケーション・ワークショップ】

[日時]2006年11月19日(水)14:00-17:00

[会場]パシフィコ横浜(303 会議室)東横線みなとみらい線・みなとみらい駅 徒歩5分、JR桜木駅徒歩15分(JR横浜駅から1駅)

[参加費]3,000 円(患者・介護者1名は無料)

[連絡先]日本 ALS 協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-15 瑞鳥ビル1F

TEL03-3234-9155 Fax03-3234-9156

E-mail:jalsa@jade.dti.ne.jp

URL:<http://www.alsjapan.org>

【千葉県言語聴覚士会平成18年度第3回研修会】

[日時]平成18年11月26日(日)

研修会 13:00-15:05

情報交換会 15:20-16:00

[会場]川鉄千葉病院7階

[内容]症例検討会(成人)

発表者:須田真紀(千葉県千葉リハビリテーションセンター)

切り替えに困難性を有する失語症例]

高木美沙(千葉徳洲会病院)

テーマ未定 *決定次第 HP に掲載

アドバイザー:小林球記先生(自動車事故対策機構千葉療護センター)尾高恵美先生(介護老人保健施設クレイン・作業療法士)

[定員]100名

[参加費]

会員・会友は無料、会員外1,000円、学生500円

[申込]郵送またはFAXで11月17日(金)まで

[問合せ先]〒271-0043 千葉県松戸市旭町 1-160 松戸神経内科 四方田博英

Tel:047-344-3311(電話による問合せは17:00-18:00)

Fax:047-344-1414

編集後記

多忙を極める中、著明な健忘症状が出ていますが、KSTNETの編集・発行作業だけは忘れずにやれているのは原稿の締切を守ってくださる県士会の皆様のおかげです。感謝感謝。

(信)

yamaguch@seishoukan.ac.jp